



茨城県言語聴覚士会

設立10周年を迎え、研修、啓発活動、イベントに積極的に取り組んできました。会員数300名を超え、一般社団法人化を目指して頑張っています。

茨城県言語聴覚士会 副会長 社会局長
水戸医療センター 神経内科 言語治療室 吉田 眞由美

関東圏にありながらなかなか認知度の上がない茨城県。しかし、STの分野では様子が違います。幅広い活動を展開するとともに、急激に増加している若い世代のSTたちの育成を図るため、さまざまな試みがなされています。

昨年、設立10周年を迎えた茨城県言語聴覚士会の多彩な活動を、副会長の吉田眞由美さんにご紹介いただきました。

地域の特徴はさまざまでも、STの知的、人間的、社会的な質の向上を図る。

活動紹介の前に我々が住んでいる茨城県について。なんと県魅力度・ブランド度全国最下位だという。

なぜだろう？

でも私の住む水戸近辺在住の県民に聞いてみると『茨城は良いよね。』と住み心地、物価、人情、自然の恵みなどなど、満足度高いぞって答えばかりなのに…どうして？

メロン消費率全国一というのは、贅沢なデザートを食べる県民性というわけではなく、たぶん、メロン生産量日本一だから。時期になるとそこら中にメロンが転がっているため、知人や親戚などに季節の贈り物として使う人が多いからだろう。

そして自動車盗難率第1位。盗難率は、高級車が多い率にリンクしていると言うし軽自動車の数に反比例しているらしい。いい車持ちの茨城だ。

さて、こんな県民特性を持つ茨城だが全国的に急激に増加している若い世代のSTたちの育成を考えると、県士会の活動は大きな影響力を持つてくると当会も考えている。

茨城県は、古き田舎っぺが多い県央県北地区（水戸も含む）、つくば研究都市が有名な一寸都会的な県南地区、そして農村と湖が広がる鹿行県西地区に大きく分けられる。リハビリ365日体制が始まった今、全員を集めるなんて至難の業。でも急増するSTの知的、人間的、社会的な質の向上も図りたい、県士会活動に目を向けてもらいたい、他の団体に遅れを取りたくない等々、夢と希望と焦りが入り乱れる。



10周年記念式典

設立10周年を迎え、顔の見える県士会を目指して活動しています。

昨年、当会は設立10周年を迎え、草野義尊会長を中心に、顔の見える県士会を目指して、記念式典を開催した。特別講演には江戸川病院リハビリテーション科顧問の佐野洋子先生をお迎えし、新米STたちに熱いエールを送っていただいた。中堅STたちの手作り感ムンムンの「県士会10年の歩み」と題するDVD上映、会員たちによる楽器演奏、立食パーティーなど100人を超える参加者で、盛り上げることができた。大半が若いSTたちの参加であったこともうれしい結果であった。

毎年の活動としては、新人症例検討会・講師をお呼びしての研修会・生涯学習プログラムの実施（基礎・専門講座）、言語聴覚の日の啓発活動などを行っている。

現在、組織図としては学術教育局・社会局・事務局で活動しているが、会員数が300名を超え一般社団法人化を目指して、組織の細分化と下部組織の充実、地域のブロック化を推進していく予定である。今後ともよろしく願いいたします。

県別STランキング（何の？）では上位目指して頑張りたいと思う茨城でした。



言語聴覚の日の事業



10周年記念



特別講演



症例検討会